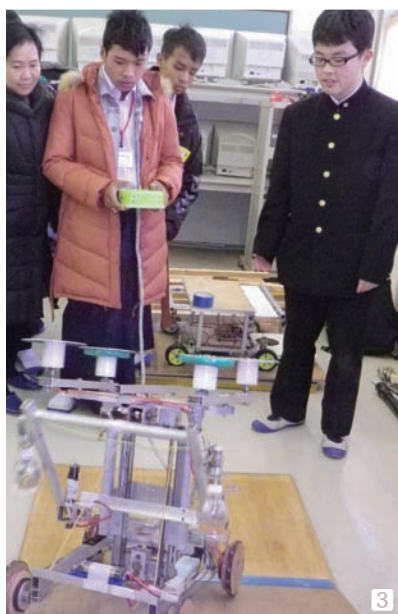


FGC NEWS No.4

March 2014

FGC ～Foundation for Global Children～

一般財団法人 世界こども財団



◆ 東日本大震災復興支援活動

こども達の未来に灯りをともす

◆ 海外支援

ミャンマーから工科高校生が短期留学

～世界に広がる「星槎3つの約束」～

「特性」をとらえ、「個性」がより輝くサポートを目指して

— 南相馬市立小高中学校での取組み —

世界こども財団（FGC）教育環境支援班
三森 睦子、福井 美奈子、川井 一男

はじめに

私たちは、震災2年目の2012年4月から、南相馬市立小高中学校で生徒のカウンセリング等を実施しています。ここから、私たちの活動の概要と私たちが目指しているものについて述べます。

1. 南相馬市 小高区の現状

震災被害のあった東北各県において、福島県は、震災・津波・原発事故・風評被害という4重苦をかかえています。その福島県の中でも、南相馬市は特に被害が大きかった市町村の一つで、市内に「警戒区域20kmライン」が設定されました。私たちがサポートをする小中学校の元の所在地である小高区は、その20km圏内にほとんどの地区があります。同じ南相馬市の原町区、鹿島区と違い、被害が大きくインフラの整備もできず、復興のめどが立っていません。そのため、警戒区域は解除されても、家に行くことはできても泊ることはできません。

小高区にあった小中学校は現在、鹿島区内の小中学校内に仮設校舎を移設しました。小高区の住民、児童・生徒の多くが仮設住宅や借上げ住宅に居住しています。その他、2012年4月の警戒区域指定解除後も、避難先から戻らない住民も多く見られます。



小高中学校仮設舎

2. 南相馬市立小高中学校でのサポート活動

小高中学校は、鹿島小学校の校庭内の仮設校舎に移設されました。震災前は全校生徒約400人のマンモス校でしたが、震災直後には42人、現在は約100人の通学となっています。

私たちがサポートを開始した震災2年目は、環境や生活がやや落ち着きを取り戻し、生徒たちが震災前から持っていた「学びにくさ」「コミュニケーション力の弱さや偏り」が目立つようになってきた時期です。私たちは、まず生徒全員と面談をし、学習状況、学校生活、友人との関係、家庭環境を把握しました。その上で養護教諭、担任と協議し、特に必要が認められる生徒には、保護者の了承の上で心理検査（主にWISC-Ⅲ）を実施し、その検査結果をもとに所見を作成、養護教諭や担任へコンサルテーションを行うと共に、保護者とも面談をしました。これまで、学業不振、不登校、反抗的な態度といった形で現われていた生徒の発達の課題を「特性」という視点でとらえ、先生方に生徒の理解を深めていただけるようにしています。

心理検査は一方で、生徒本人のこれまで見えなかった能力・強みの発見にもつながります。授業中や相談室での学習支援の中で、得意なところをフィードバックし、苦手なところをカバーする勉強方法を生徒と一緒に考えてきました。結果がでると、生徒は途端にイキイキしてきます。人は、一人ひとりが違っており、同じ人はいません。生徒一人ひとりを形成する背景を理解することは、そのまま生徒をしっかりと理解することにつながります。生徒の凸凹も「特性」としてとらえるだけではなく、かけがえのない存在である一人の生徒の「個性」なのです。

「あなたはあなたで良い」と受容され、肯定されたこどもは、他のこどもを肯定し、受容できる人になるのではないのでしょうか。

3. まとめ

震災で農業や漁業、その他の仕事を失った大人はたくさんいます。小高地区はそれに加えて戻る場所も失ってしまいました。生活面の不安、精神面での喪失感もあると思います。生徒は、仮設校舎や仮設住宅で過ごし、復興から置いていかれているのではないかと不安を感じています。また、震災により家族が分断された生徒もいます。そして何よりも、将来のロールモデルが見えなくなっています。自分がどのように大人になるのか、自分はどんな大人になるのか、それが見失われています。生徒が自分自身を肯定し、個性を活かすことで将来に向けて自分の力で人生を切り拓いていけるように、私たちはサポートをしています。それはこども達の未来に灯をともしることであり、そのまま被災された地域の未来を明るいものにすることだと考えています。

【相馬市教育委員会 総括】

2013 年度における相馬フォロアーチームでの星槎スタッフによる成果

スクールカウンセラーとして訪問している学校では、医学的診断で PTSD（心的外傷後ストレス障害）に該当する児童生徒・保護者・教員は見られず、現在のフォロアーチームによる活動がメンタルヘルスの悪化防止や向上に効果を発揮しているものと考えられる。

PTSD などの問題が起きてから動くのではなく、問題が起きないように予防的な関わりを心がけており、震災ストレスによる問題が見られないのは、現在の予防的な関わりが有効であることを示している。

不登校傾向の生徒が中学校に在籍しているが、スクールカウンセラーとして関わり学習サポートや高校進学に向けて保護者とのカウンセリングを行っている。その結果、登校はしていないものの、現在の課題を明確にして、本人や保護者の納得を得ながらその課題を克服するように努力している。

2014 年度になると、現在不登校で関わっている生徒が中学を卒業する。また、被災者の住宅再建が本格化し、磯部小・中学区、中村第二小・中学区から転出する家庭も増えることが想定される。こどもアートメゾンの相談室でのカウンセリングや、転出先の学校や家庭への訪問などがさらに重要となることが予想される。学校でのスクールカウンセリングのみならず、事務所に常駐して状況に応じて臨機応変に動けるスタッフが 2013 年度以上に必要になると考えられる。

相馬フォロアーチーム雇用のスクールカウンセラーは経験が浅く、また年度毎にメンバーの一部が変わるため、星槎スタッフが中心的な役割を果たしているのが実情である。

小学校・中学校・高校、そして保護者・教職員・関係機関など対象に、発達や学習に関する相談から、身体症状、自傷行為、事故後の危機対応まで幅広く対応するためにも、知識と経験が豊富な星槎スタッフの協力が相馬市や周辺地域からも求められている。

東日本大震災支援活動集計《2011 年 5 月～ 2013 年 12 月》

	内 容	延べ人数	対 象 地 域
医療支援班	放射線説明会・健康診断	2,962人	福島県相馬市・南相馬市・郡山市 川内村・飯館村
教育環境支援班	カウンセリング・行動観察 情報交換等 (生徒・教員・保護者)	3,752人	相馬市 中学校：2校、小学校：4校 南相馬市 中学校：3校、小学校：6校 新地町 高校：1校
星槎寮	ボランティア等宿泊対応	2,899人	星槎グループ：1,466人 東京大学医学研究所関係者：637人 ボランティア：796人



相馬市内さくらビル
3階部は全フロアーを「星槎寮」として使用

福島の子どもの健やかな成長を願って

世界子ども財団（FGC）医療支援班 坪倉正治
東京大学医科学研究所医師
南相馬市立総合病院非常勤医師



震災後、世界子ども財団医療支援班の一員として福島県相双地区での活動を開始してから、もう3年になります。お手伝いしている内部被ばく検査は、徐々にその形も変化し、南相馬市、相馬市では、学校検診と連携して定期的にこどもの体内に放射性物質の蓄積が無いかを検査する体制になってきています。

昨年にご報告した内容とも重複しますが、2014年現在、こども達の体内から原発事故によって飛散した放射性物質が検出される状況ではありません。2013年春に行われた学校検診では、南相馬市の小中学生約3200人、誰一人からも放射性セシウムを検出することはありませんでした。体内から放射性物質を排泄できること、現在流通している食材の放射能汚染がほとんどないからです。

そして、食材についても放射能汚染をしやすいものと、そうでは無いものに分かれることも判明しています。いくつかの既に出荷制限のかかっている食材を未検査で摂取するようなことが無ければ、大きな内部被ばくをすることはありません。今後も継続的な検査は必要ですが、現状の福島県内の生活において、放射性物質が健康影響を及ぼすレベルに無いことが分かってきています。

ただ、そのような状況が十分にこども達にも伝わっていません。多くのこども達には、「放射性物質は原発事故前から地球上のありとあらゆる場所にあること」や「被ばくは0か1かの話ではなく、程度問題であること」などの基礎的な知識が十分ではありません。それに加えて懸念されるのは、ごく一部に「もう被ばくしたから自分はもうダメだ」「将来、こどもが産めないのではないか」といった不安やストレスを感じている生徒がいることです。決して大きな声としては聞こえては来ませんが、どこかに負い目を感じているような印象を受けています。

不幸にして事故は起こってしまいましたが、その結果起こった被ばくは、将来の健康の不安を考えねばならない量には到底達してはいません。今まで福島県内で行われてきた、様々な検査結果がそれを示しています。色々な情報が氾濫し、それがこども達を傷つけてしまっているのです。それに対して、その声をすくい上げ、こども達が自分自身に自信を持ち、尊厳を持って生きていくことができる環境を大人達と一緒に作っていく必要があります。

その一つとして、小中学校を中心として放射線教育も少しずつですが始まっています。まだまだ現地では試行錯誤が続いていますが、継続的な検査が続くと共に、こども達がしっかりした知識を身につけて、元気に成長していった欲しいと思っています。

福島の子どもの笑顔のために…

関東で暮らす大学生が、 サッカーを通じて、 福島支援！！

奥寺 康彦サッカースクール
(in 福島県相馬市光陽サッカー場)

(2013年11月16日・17日)



サッカー指導中の学生ボランティア

現在、サッカー交流支援は関東の複数大学から学生ボランティアを募り、実施しています。
今後の支援拠点は、2013年10月にリニューアルされ、2014年2月現在、人工芝コート2面・天然芝コート3面の広大なサッカー場となった相馬市の光陽サッカー場です。参加した114人の小中学生にとって、サッカーを楽しみながらも、周りとの連携を考え、プレーする意味を知る機会となりました。

相馬を訪れた学生ボランティア達は、サッカー場の規模の大きさに驚き、こども達と接しながらサッカーを教えるための指導方法を学んでいました。学生達は、夜には日本 VS スペイン戦の解説を奥寺 康彦氏（星槎グループ奥寺スポーツアカデミー校長）と大野 真氏（FAKJ 神奈川サッカー協会）の生の声の解説を聞きながら、サッカーを語り合う有意義な時間を過ごすことができました。スクール終了後、学生達は双葉町付近の被災した場所や、未だに津波などの痕が残る沿岸部を見学し、深く考えるところがあったようです。

関東で暮らすボランティア学生、若者達が街の空気を感じ、また、相馬のこども達との交流経験を生かし、「何かを感じ、次なる行動・次なる支援の広がり」を考えるきっかけにして欲しいと思います。

〔過去サッカー交流会に関わってくれた学生・ボランティアの所属〕

社会人・東京大学・横浜国立大学・産業能率大学・神奈川大学・神奈川工科大学

東日本大震災復興支援チャリティコンサート 「ブリュッセル弦楽四重奏団コンサート 2013」

世界こども財団は10月31日、ブリュッセル弦楽四重奏団による東日本大震災支援のチャリティーコンサートを、東京 銀座のヤマハホールで開催しました。同カルテットによるチャリティーコンサートは、2012年に続き2回目になります。

当日は約300人の皆様にご来場いただきました。
ベートーヴェンやブラームスの作品に加え、ベルギーの現代作曲家であるユイブレシュトの弦楽四重奏曲も披露され、弦楽器の奏でる美しい音色に心癒される一夜となりました。

コンサートの収益金226,275円は、全額東日本大震災の復興支援のために活用させていただきます。

ご来場いただきました皆様には心より感謝申し上げます。
ありがとうございました。

※チケット売上 114枚 490,000円

※収益金：チケット代のうち1,000円を寄付として、

114 × 1,000 = 114,000円
+) 当日の寄付金 112,275円
合計 226,275円

一般財団法人世界こども財団
FCC ~ Foundation for Global Children ~

東日本大震災復興支援チャリティーコンサート
ブリュッセル弦楽四重奏団
コンサート 2013

ユイブレシュト / 弦楽四重奏曲 第1番
ベートーヴェン / 弦楽四重奏曲 第1番ハ長調 op.18
ブラームス / 弦楽四重奏曲 第1番ハ短調 op.51

2013年10月31日(木) 19:00開演 (18:30開場)
【会場】ヤマハホール (東京都中央区銀座7-6-4)
【チケット】一般 5,000円 全席指定
FGC会員 4,000円

※収益金は全額世界こども財団に寄付されます

【お問い合わせ先】世界こども財団事務局
TEL 0463-374-0046 (星槎グループ) FAX 0463-60-3507 (楽譜の申込用紙をご利用ください)
E-mail: fgc@fcc.or.jp ホームページ: http://www.fgc.or.jp

※お申し込みは、お名前、ご住所、電話番号、チケット枚数を記載ください。
※お申し込みは随時受付いたしますので、お申し込みの回数に限りはありません。
※お申し込みはチケットを郵送いたしますのでご了承ください。
※中学生未満のお子様は大人と一緒に来場する必要があります。

●主催：世界こども財団 〒202-0111 神奈川県中郡大磯町関原1805-2 一般財団法人世界こども財団
●後援：ベルギー王国大使館 星槎グループ FCC ~ Foundation for Global Children ~

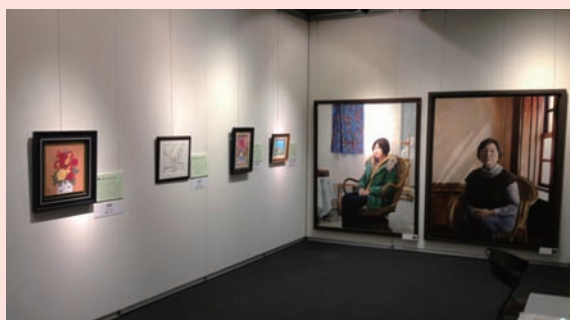


「ミネルヴァのふくろうと 明日の日本」作品展 【北海道】

昨年9月、神奈川県大磯町を皮切りに、10月の北海道札幌市に続き、今年2月には帯広市で、『ミネルヴァのふくろうと明日の日本 作品展』を開催し、3会場合わせて延べ2,585人の来場者にお越し頂きました。

ギャラリー関係者からは、「北海道でこれらの作家の作品が、一堂に会することはなかった。とても貴重な催しになりますね」と言って頂きました。また、ご来場の方々からは「道内でこれらの先生方の作品を間近で見ることができて、とても感動しました」「できることなら家に飾りたい!」という感想が多数寄せられました。特に北海道出身の笠井誠一先生と池田良二先生の作品には注目が集まり、「笠井先生は、僕の高校の先輩だよ」というお客様もいらっしゃいました。

21点の作品と共に、道都大学美術学部デザイン学科の学生の日本美術展覧会（日展）入選作品



大丸藤井セントラル スカイホール（札幌市中央区）にて

も展示しました。学生の作品の前で、長い時間足を止め鑑賞されていた方は、100号というサイズに「迫力のある作品ですね。自分もこのような絵を描いてみたい」と感想を話していました。

3会場で集まった募金59,113円は、東日本大震災復興支援活動に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

今後、21人の著名な作家による作品展は、日本各地での開催を予定しています。

スペースウェザー協会による放射線量計設置事業（協力 FGC） ～住民の方が浪江町の今を知るために～

星槎グループ 一般社団法人スペースウェザー協会の目的は、主に太陽活動による宙空環境の変動を表す宇宙天気の研究・普及・教育活動を行うことです。宇宙天気予報は、太陽活動による影響を事前に察知し、災害等をできる限り防ぐためのものです。地球に対して色々な影響を与える太陽活動を観測するため、当協会設立母体の一つである九州大学では、世界64箇所に地磁気測定器（MAGDAS）を設置して、リアルタイムデータを発信しています。

そのシステムを利用し、放射線量データの発信に活用する活動を世界子ども財団と協働しながら、2011年6月より開始しました。現在、福島県双葉郡浪江町役場からの依頼で、線量計設置活動をしています。

国の原子力規制委員会が、モニタリングポストを設置していない生活空間や浪江町の80%を占める山林等、役場や住民の方々が希望する場所に設置しています。これらデータは、リアルタイムにインターネット（<http://133.5.162.9/plot>）からその測定値を見ることができます。また、長期にわたってデータの推移が把握できるため、除染効果・天候による変化等も観測できます。

2014年4月以降、飯舘村からも依頼を受け、設置する計画を進めています。

スペースウェザー協会ホームページ（<http://club.spaceweather.or.jp/>）



当協会設置線量計

【浪江町内設置場所】

- ①浪江町役場 ②加倉運動公園 ③中央公園 ④浪江東中学校 ⑤高瀬球場 ⑥矢沢町ふれあいセンター
⑦小野田総合グラウンド⑧川添地区 ⑨請戸大平山

ヤンゴン市内で SEISA Lunch for Action 開催

2013年11月20日、ヤンゴンにあるチャトリウムホテル・ロイヤルレイクヤンゴンで、ミャンマーにおける星槎の活動の報告と今後のさらなる発展を願う「SEISA Lunch for Action」が行われました。ミャンマーの保健省、科学技術省、情報通信技術省、ミャンマー議会と党である連邦団結発展党（USDP）、ミャンマー日本協会、在ミャンマー日本大使館、そしてミャンマーへ訪問中の黒岩祐治神奈川県知事をお迎えし、総計80人を超える参加者が集まる活気ある会合となりました。



ミャンマー保健省感謝状

式典と昼食会の2部構成で行われ、式典では星槎グループを代表し宮澤保夫会長の挨拶、世界子ども財団の土屋了介理事長の挨拶に続き、保健省への救急車を贈呈。科学技術省へは黒岩知事がミャンマーから高校生を県立高校へ迎える事を宣言し、情報通信技術省へは電波モニタリング機器贈与の約束をしました。

式典後、昼食と交流の時間を持ち、ミャンマーの発展に向けたアイディアを皆で熱心に話す姿が見られました。

保健省のテイン副大臣は、「宮澤さんの情熱をもって語る姿にとっても心が動かされています。SEISAと協力できることはとても嬉しい」と語り、日本ミャンマー協会の関（せき）様のご挨拶で本協力体制の発展を祈り、盛会のうちに終了となりました。

アマチュア無線による広報活動 in ミャンマー

ミャンマーでのプロジェクトの一環として、2013年11月14日から26日まで、新しい首都ネピドーでアマチュア無線を通じた広報および募金活動を行いました。これは2012年12月のカンボジアと同様に国際チームとしてのボランティア・メンバーを募り、出来るだけ多くの国の人々に財団のミャンマーでの活動を理解して頂き、共にプロジェクトの推進を助けるものです。

ミャンマーでの正式なアマチュア無線運用は2003年以来10年ぶり、世界のアマチュア無線家



アマチュア無線広報

から「運用が望まれる国や地域」の第24位にありました。宮澤専務理事は同国の情報通信技術省との長い交渉期間を経て、昨年8月と9月に無線運用許可を得ました。この経験を基に11月のチーム運用を綿密に計画し実行しました。今回のチーム構成は、日本から3人、ドイツ1人、タイ2人、アメリカ2人、ブラジル2人、そして香港から1人の計11人で、他に3人のスタッフが援助しました。

今回は実質11日間の運用で、カンボジアでの倍をはるかに超える約5万5千の交信数を記録しました。また、2014年2月15日現在約US \$25,000ものご寄付をいただいております。

世界各国のアマチュア無線家の皆様に心より感謝いたします。



ミャンマーから工科高校生が短期留学 ～世界に広がる3つの約束～

ミャンマーのこども達の保健衛生の向上、人材育成の協力・支援事業の一環として、ミャンマーの科学技術省が全国の国立工科高校から選抜した生徒5人、引率教員1人を日本に招待しました。期間は2014年1月16日～29日の2週間で、星槎中井寮に滞在し、星槎の生徒達との共同生活を経験しました。

【工業高校での授業・実習】

神奈川県立平塚工科高等学校で、主に3年1組の生徒達と一緒に3日間、授業を体験しました。教科授業だけでなく、日本の工業高校ならではの実習体験が大きな狙いでした。ペットボトルを粉砕し、射出成形機で球体に成形するリサイクル体験や、回路のハンダ付けを行い、3分経つとチャルメラの音楽が流れるラーメンタイマーの製作、C言語でLEDの点滅をコントロールするプログラミングの実習等を行いました。ミャンマーの高校の授業にはない、体育の時間に卓球も体験しました。放課後、クラブ活動の見学では、社会部が作成したソーラーカーの実物に試乗させてもらいました。また、カセットコンロのガスボンベで走るミニカーも大変興味を持って見ていました。日本



ラーメンタイマーをつくりました



平塚工科高等学校の生徒とハイタッチ！

の学校の設備が充実していることに驚いていましたが、最も印象に残った事は、学生と教師の距離が近いこと、ミャンマーに比べて生徒がより自由な環境の中で学校生活を送っていることだったようです。

最終日には生徒会の皆さんから記念品を頂き、多くの生徒、先生達に見送られ学校を後にしました。

【企業見学】

日産自動車(株)横浜工場、(株)横浜リテラ本社（印刷）、(株)横浜ドライ本社（クリーニング）、オリンパス技術歴史館「瑞古洞」、GEヘルスケア・ジャパン(株)（医療機器）、医療法人社団 KNI 北原国際病院、鈴廣かまぼこ(株)恵水工場・かまぼこ博物館（蒲鉾）、(株)ファム（立体駐車場）、(株)ニッポン放送本社（ラジオ）を訪問しました。

製造ラインでは、ロボットが活躍する自動化された機械をはじめて目にし、とても喜び、また驚いていました。「カイゼン」「5S」等現場主体の品質管理・向上運動も紹介され、高品質で均一な生産や安全作業のための意識の高さと実践に感銘を受けていました。

【人々との交流】

昨年11月、宮澤専務理事と共にミャンマー国を訪問され、今回の研修の実現にご助力頂いた神奈川県黒岩知事を表敬訪問し、留学の報告を行いました。星槎中学高等学校では、大勢の生徒から歓迎を受けとても感激した様子でした。その後、和太鼓のレッスンに参加し、交流を深めました。ウェルカムパーティー

には関東圏の星槎学園、星槎国際高等学校の生徒達も集まり、英語とミャンマー語を使って留学生たちに自己紹介し、一生懸命コミュニケーションをとっていました。会が終了する時間を過ぎても、生徒達は話し足りない様子でした。最終日前日には、宮澤専務理事と共にミャンマー大使館へ出向き、滞在中の活動報告を行いました。担当者が気さくな対応をしてくださり、和やかな表敬訪問となりました。

今回の滞在中、浅草や鎌倉、秋葉原での観光を通じて日本を楽しみました。特に 100 円ショップが気に入った様子でした。日本の寒さには戸惑っていましたが、誰も体調を崩すことなく、彼らの故郷では中々見る事のない雪を少しですが見ることもできました。



日産の車に試乗

【留学生の決意】

プログラムの最後には、彼らが自分で漉いた和紙の修了証を宮澤専務理事、井上常務理事より授与され、将来に向けた激励を受けました。宮澤専務理事から「戦後の日本は何もない焼け野原から再出発して、国民みんなが努力した。特に若者たち、子ども達が努力した結果、大きく発展をした。ミャンマーでそれを行なうのは、今回、日本を体験した君達です、それは君達の仕事だ」との力強い激励を受けました。

井上常務理事からは「修了証は、みなさんがプログラムを修めたという事だけでなく、たくさんの人達と笑顔で交流ができたという証です。星槎の3つの約束を忘れないで下さい。また会いましょう」と修了証と共に、星槎の校章（未完成の三角形）が贈られました。留学生達からは、「今回の経験をミャンマーの発展に活かすと約束させていただきます」「星槎グループの『人を排除しない、人を認める、仲間を作る』という3つの約束を忘れず、国に帰ってもいつも思い出して行動したい」という決意が述べられました。彼らの言葉から「日本に行きたい多くの高校生の中から自分達を選ばれ、自分達が国の将来を担っていく」という強い自覚が感じられました。

来日中、毎日夜遅くまで、その日体験したことなどをレポートに英語で細かくまとめている真摯な姿が見られました。また、星槎の校章の意味や、3つの約束の話など熱心に質問し、星槎の理念を理解しようとする強い気持ちが伝わってきました。

最後に、本プログラムにご支援、ご協力賜りました神奈川県、平塚工科高等学校、各企業の皆様、全ての皆様に深く御礼申し上げます。



交流会で星槎の生徒たちとともに



ブータンからの留学高校生が卒業

皆さん、いつかぜひブータンに来てください。ブータンで皆さんを待っています。

ブータン王国から高校留学していたペマ君とキンザン君が、3月に星槎学園奥寺スポーツアカデミー（OSA）を卒業しました。

来日前、ブータンの教育省の面接会場で、ペマ君とキンザン君は顔を合わせていたはずですが互いに記憶がなく、名前を聞いても顔も思い浮かばなかったそうです。それが今では、ブータンの家族同士も仲良く付き合うほど親しくなりました。

最初の数ヶ月はブータンが懐かしくて、帰ることばかり考えていたようです。けれど、今は日本の生活をしっかりと楽しみ、教材に使っている新聞のニュースにも関心を向けるようになりました。

卒業後2人の進路は異なりますが、これからも日本で出会った仲間のことを忘れずに、また新しい出会いを大切にしたいと思っています。



キンザン君（左）とペマ君（右）

教材に使っている新聞のニュースにも

（日本語担当講師 魚瀬美智子）

【ペマ君からのメッセージ】抜粋

今度また、ブータンや他の国から留学生が来ると思います。留学生にとって日本は外国です。すべてが新しいことでわからないことがたくさんあり不安です。だからみんなとのコミュニケーションがとても大切です。留学生は日本語が話せないと思います。でも、どんどん留学生とコミュニケーションをとってください。これから来る新しい留学生とも仲良くなりたいです。これは僕から二つの手をひとつにあわせてお願いします。



左から2人目 中央がペマ君



大磯町立国府幼稚園園児との交流

僕たちには OSA のコーチのような人たちがいて、本当にラッキーだと思います。コーチだけでなく、OSA の職員や先生も僕たちが全国大会に行けるように本当に頑張ってくれています。だから、僕たちも自分のことだけを考えるんじゃなくて、コーチと先生が一生懸命頑張っているのを忘れてはいけないと思います。いつか絶対に全国へいけますから、あきらめないでください。ブータンか何処かはわかりませんが、どこかで応援していますからね。

【キンザン君からのメッセージ】抜粋

日本に来た目的はサッカーと日本語の勉強です。困ったことはたくさんありましたが、その中で一番困ったのは授業です。なぜなら、日本語がぜんぜんわからなかったからです。その上、サッカーも日本に来てから始めたので、練習もきつく大変でした。今では練習も日本語も毎日やっているの、自信がついて前よりよくなっています。けれどミスのほうが多いの



ゴールキーパーがキンザン君



救命救急法を学ぶ

で、これからミスしないように前より自信を持って、なんでもしっかりとやりたいと思います。この一年半は色々学びました。特に日本の文化は来なければよくわからなかったと思います。その上、去年はドイツに行って、ドイツの生活を見ることができました。そして、ドイツの人とサッカーの練習もできて、新しいことも学びました。

ブータンに帰ったら、日本で学んだことをいかして、新しいことにチャレンジしたいと思います。本当にありがとうございました。

ブータンからの留学生をお迎えして

今年も3回目となるロイヤル・ティンブー・カレッジ (RTC) の学生の短期留学が実施されました。政治学や環境学やビジネスを学ぶ10人の学生達と引率教員1人の合計11人が、2014年2月3日から11日までの9日間日本に滞在しました。

上野の動物園・国立博物館を訪問して自然保護や日本の伝統文化について考え、東京大学医科学研究所ではスーパーコンピューターやバイオバンクといった日本の最先端技術を体験しました。特にお台場の「りすうぴあ」訪問では、クリーンエネルギーの開発と運用の様子に興味深く見学し、いかに自国で生かせるかと多くのヒントを得られたようでした。

今回の短期留学では、星槎の学生・生徒をはじめ多くの方と交流を深めました。星槎の拠点がある沖縄・郡山と横浜を結び、高・大・院の連携で実施した星槎大学オンライン・オープンキャンパスでは、ブータンの国民総幸福量 (GNH) に関するプレゼンや伝統舞踏を披露してくれました。

歓送会はとても盛り上がり、RTCの皆さんは心から星槎グループに感謝していました。このような実りある留学になったのは、すべてご協力いただいた方々のお蔭と、心より御礼申し上げます。

2014年3月27日から4月2日まで、星槎大学からRTCへの短期留学の一行がブータンに滞在します。この交換留学がますます発展してゆくことを願っております。

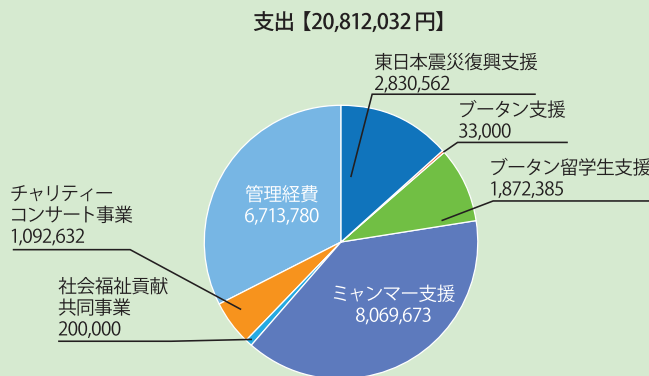
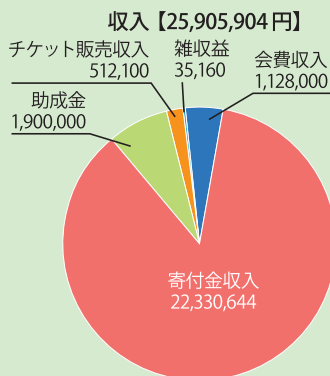
(星槎大学副学長 細田満和子)



星槎高尾キャンパスの職員と民族衣装の交換

事務局より

事業活動収支報告(2013年1月1日～2013年12月31日)【単位:円】



○上記内訳は2013年度収支報告書に基づき算出されたものです。

○この他、世界各国のアマチュア無線家の方々からPAYPALにて28,919.50米ドル、310.00ユーロのご寄付をいただいております。

※お預かりした外貨の現金については、年度末に日本円に換算し、上表の寄付金収入に盛り込んでおります。

ご協力いただいている企業・団体様(順不同) 2013年8月～2014年2月

【2013年度 賛助企業・団体】

●(株)DOE ●コグメド・ジャパン(株) ●(株)横浜総合写真 ●コニカミノルタビジネスソリューションズ(株) ●レンゴー(株) ●(株)トキコ・プランニング ●(株)小田原鈴廣 ●鈴廣かまぼこ(株) ●鈴和会(鈴廣親睦会) ●(株)バリューブックス ●シーフォー(株) ●アイ・ネット・リリー・コーポレーション(株)

●東京大学医科学研究所先端医療社会コミュニケーションシステム社会連携研究部門 上(かみ)研究室 ●医療法人社団鉄医会 ナビタスクリニック ●医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 ●かるがもクリニック ●金谷小児科医院 ●(株)ロハスメディア ●横浜総合法律事務所 ●湘南健康管理センター ●大磯ロータリークラブ ●川崎麻生ロータリークラブ ●国際ソロブチミスト二宮 ●ダイドードリンコ(株) ●西武商事(株) ●エフヴィセントラル(株) ●コカ・コーラセントラルジャパン(株) ●コカ・コーラウエスト(株) ●北海道コカ・コーラボトリング(株) ●(有)安田コーポレーション ●北海道ペンディング(株) ●北陸富士ペンディング(株) ●北海道キリンビバレッジサービス(株) ●東京キリンビバレッジサービス(株) ●大蔵屋商事(株) ●(株)ベネフレックス ●(有)杉山飲料 ●大和屋商店 ●サントリービバレッジサービス(株) ●(株)オーウェル ●若狭ものづくり美学舎 ●興学社学園 ●NPO西濃学園 ●NPO彩星学舎 ●梧桐学苑 ●NPO水前寺高等学園 ●学校法人国際学院国際総合健康専門学校 ●劇団裏長屋マンションズ ●夢楽 ●大磯町グラウンド・ゴルフ協会 ●星槎全国保護者会・全国同窓会・全国卒業生親の会

【2014年度 協力企業・施設】

●日産自動車(株) ●(株)横浜リテラ ●(株)横浜ドライ ●オリンパス(株) ●GEヘルスケア・ジャパン(株) ●医療法人社団KNI北原国際病院 ●鈴廣かまぼこ(株) ●(株)ニッポン放送 ●(株)ファミ ●大磯町 ●大磯町郷土資料館 ●神奈川県 ●神奈川県立平塚工科高等学校 ●ミャンマー大使館 ●日本ミャンマー協会

その他、個人、企業の皆様から、多大なるご協力いただいております。今後ともご協力賜れば幸いです。

あなたのライフスタイルで社会貢献 できることから、わたし達の活動に参加しませんか！

こども達を笑顔にし 将来に灯をともしことは 世界の未来をつくることです。
世界のこども達の笑顔のために 皆様のご支援 ご協力をお願い申し上げます。

【賛助会員】継続的なご支援をしてくださる方 【お振込先】

個人会員 年会費 6,000円/一口

法人会員 年会費 120,000円/一口

郵便局からの場合
口座00240-1-116684

他金融機関からの場合
ゆうちょ銀行 〇二九(ゼロニキュウ)店(029)
当座 0116684
口座名：一般財団法人 世界こども財団

【法人・企業の皆様に】 少しずつできることから /CSR の一環としてもご提案します。

FGC では、「寄付コラボ商品」として各企業の皆様に、寄付型自動販売機の設置をお願いしております。
売上の一部が FGC への寄付となります。お問合せは、下記、事務局までご連絡下さい。

【寄付モノ】 モノを大切に、捨てないライフスタイルが社会貢献につながります。

☆対象となるもの

①切手（未使用・使用切手）・はがき（未使用はがき・書き損じはがき）

②本（株）バリューブックスのチャリボンを利用）

〔インターネット〕

チャリボン HP (<http://www.charibon.jp>) で世界こども財団をクリック

⇒「この団体に本を寄付する」をクリック⇒お申込みフォームに記入

〔電話〕（株）バリューブックス（0120-826-295）に電話し、

「チャリボンに申込み」とお伝え下さい。

*お申込みいただくと宅配業者が無料で集荷にお伺いします。

③洋服（靴下や下着は対象となりません）

④カード（未使用のものに限ります）：テレホンカード、クオカード、図書カード、図書券、ビール券等

⑤その他 トレーディングカード（遊戯王カードなど）、CD・DVD（非売品は除きます）

☆送り先：本以外は、下記事務局へお願い致します。

【2013 年 1 月～12 月「寄付モノ・寄付コラボ商品」の報告】

全国の皆様のご厚志により、こんなに寄付が集まりました。心より御礼申し上げます。 2013 年 12 月末

寄付モノ (円)		寄付コラボ商品 (円)	
櫻井幸雄 カレンダー	64,000	地球博物館大図鑑（東京書籍）	171,000
本（チャリボン）	619,784	写真集「大磯の蝶」	3,700
衣類	4,918	加藤登紀子チャリティーコンサート売上より	376,458
切手・はがき類	49,370	「命が喜ぶ調理法講座」参加費より	8,400
カード類（テレカ・図書カード・各種金券）	33,285	自動販売機売上より 35 台分	1,255,766
合 計	771,357	合 計	1,815,324



寄付型自動販売機設置例



一般財団法人 世界こども財団

2014 年 3 月発行

〒259-0111

神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2（星槎グループ内）

TEL：0463-71-6046 FAX：0463-60-3507

E-mail：fgc@fgc.or.jp

ホームページ：http://www.fgc.or.jp

Facebook：「世界こども財団」で検索！



この冊子は「日本郵便」の助成を受け発行しております。